

# 病害虫発生予察注意報 第7号

富山県農林水産総合技術センター所長

## シロイチモジヨトウの多発に注意(第2報)

県内のネギほ場では、シロイチモジヨトウの成虫が、依然多く確認されています。今後、本幼虫による被害の拡大が懸念されるため、防除の徹底が必要です。

### ◎病害虫名 シロイチモジヨトウ

1 作物名：ネギ、その他野菜・花き類

2 発生地域：県下全域

3 発生程度：多い

#### 4 注意報発令の根拠

- (1) 県内5か所に設置したフェロモントラップ調査において、7月3半旬～8月2半旬の累計誘殺数は、175.6頭(平年73.1頭)と平年より依然多く確認されている(図1)。シロイチモジヨトウは、9月にかけて増加する傾向があるため、今後、被害の拡大が懸念される。
- (2) 新潟地方气象台によると、北陸地方の8～10月の気温は、平年より高いと予想されており、シロイチモジヨトウの活動が活発になると予測される。

#### 5 防除対策及び留意事項

- (1) ほ場を見回り、卵塊や幼虫が付着した葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- (2) ネギの葉身内や結球する葉菜類の内部に侵入した中～老齢幼虫は薬剤の効果が低くなるため、若齢期までに表を参考に薬剤防除を実施する。
- (3) 被害がみられる場合は、7日間隔を基本に薬剤散布を実施する。なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤使用は避け、ローテーション防除を実施する。
- (4) 交信かく乱剤を用いる場合は、薬剤散布後の発生密度が低下したタイミングで設置する。

【参考資料】

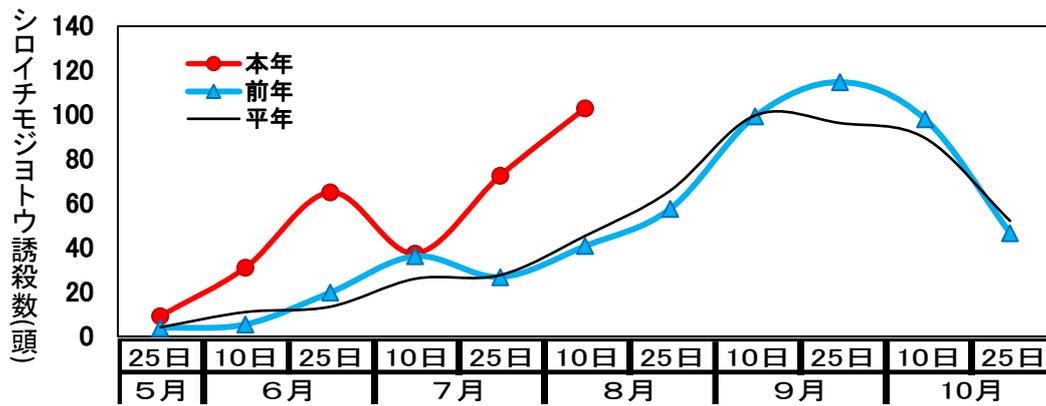


図1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数(県内5か所平均)



図2 シロイチモジヨトウ成虫(左)と中齢幼虫(右)



図3 シロイチモジヨトウの卵塊



図4 シロイチモジヨトウによるネギの食害

表 ネギにおけるシロイチモジヨトウに対する防除薬剤

農薬の名称	希釈倍数又は使用量	使用時期	使用回数	使用方法	散布量 (L/10a)	系統 IRACコード
アグロスリン乳剤	1,000	収穫7日前まで	5	散布	100~300	3A
アニキ乳剤	1,000~2,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	6
マトリックフロアブル	1,000~2,000	収穫7日前まで	3	散布	100~200	18
ディアナSC	2,500~5,000	収穫前日まで	2	散布	100~300	5
プレバソンフロアブル5	2,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	28
ダブルシューターSE	1,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	-, 5

問合せ先  
 農業研究所 病理昆虫課  
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-2701